

ASEAN

2022年11月17日
海外調査部・バンコク事務所

■2022年の東南アジア経済は5.1%成長の見通し

2022年9月のアジア開発銀行（ADB）「アジア開発見通し（ADO）アップデート」によると、2021年の東南アジア地域の経済成長率は3.3%となり、前年のマイナス成長から脱し、プラス成長となった。2020年は新型コロナウイルスの感染拡大により、防疫措置として移動や活動に制限が加わり、生産・事業活動と国内外市場での消費が低迷するなど、供給・需要の両面において多大な影響がみられた。2021年も東南アジア各国では7～9月にかけて新型コロナの感染が拡大し、国によっては事業活動を停止せざるを得ないなど影響があったが、生産活動は10月にはおおむね正常化し、ウィズコロナ対応を進める動きがみられた。

国別では、シンガポール（7.6%）、フィリピン（5.7%）の2カ国が前年からの反動で特に高成長がみられた。また、本格的な回復には至っていないものの、インドネシア（3.7%）、マレーシア（3.1%）、カンボジア（3.0%）、ベトナム（2.6%）、ラオス（2.3%）、タイ（1.5%）と、プラス成長を確保する国が多かった。ただし、2021年2月に軍事政権による政権掌握が起こったミャンマーは、その後の混乱からマイナス5.9%と大幅なマイナス成長となった。

2022年の主要国の統計から、四半期ごとの経済成長率（前年同期比）をみると、マレーシア（2022年第1四半期：5.0%、第2四半期：8.9%）、ベトナム（5.1%、7.8%）、フィリピン（8.2%、7.4%）などが高成長を記録しており、インドネシア（5.0%、5.4%）、シンガポール（4.5%、4.4%）も堅調である。タイ（2.3%、2.5%）は、まだ周辺国に比べて回復は緩やかな状況である。

2022年の東南アジア経済の見通しについては、コロナ禍で導入された規制の緩和による民間消費や投資の活発化、外国との往来再開による観光業の伸長により、ADBは同年4月時点で4.9%としていたが、9月の改定版では5.1%へと引き上げた。フィリピン、インドネシア、ミャンマーの予測引き上げが寄与した。フィリピンは好調な個人消費や投資を受けて、6.0%から6.5%に、インドネシアは堅調な内需に加え、資源輸出が追い風となって5.0%から5.4%に引き上げた。ミャンマーは繊維製品の輸出が回復しており、マイナス0.3%から2.0%に引き上げた。その他の国別の見通しは、ベトナム（6.5%）、マレーシア（6.0%）、カンボジア（5.3%）、シンガポール（3.7%）、タイ（2.9%）、ラオス（2.5%）となっている。

なお、2023年は世界経済の減速や、サプライチェーンの混乱、中国の「ゼロコロナ政策」の継続、インフレの加速により、東南アジアの予測を5.2%から5.0%に引き下げた。国別にみると、ベトナム（6.7%）、フィリピン（6.3%）、インドネシア（5.0%）、マレーシア（4.7%）、タイ（4.2%）、シンガポール（3.0%）といった見通しになっている。

■2021年のASEANの貿易総額は25.1%増

ASEAN事務局の統計データベースである「ASEAN Stats」によると、2021年のASEANの輸出額は、前年比22.6%増の1兆7,122億4,800万ドル、輸入額は27.9%増の1兆6,283億9,700万ドルと、輸出入ともに2割以上増加した。貿易総額は25.1%増の3兆3,406億4,400万ドルに大幅に増えた。

相手国・地域別にみると、貿易総額の構成比ではASEAN域内（21.3%）、中国（20.0%）、米国（10.9%）、EU27（8.1%）、日本（7.2%）、韓国（5.7%）の順となった。日本はASEANの対話パートナーとして5番目に大きく、国単位では米中に次ぐ3位の貿易相手となっている。

輸出を相手国・地域別にみると、最大の仕向け地はASEANで、24.7%増の3,716億4,200万ドル（構成比21.7%）であった。域内ではマレーシア向けが30.3%増の732億3,800万ドル、シンガポール向けが11.4%増の730億2,100万ドルと増加した。ASEANに続いて、中国は28.2%増の2,805億3,800万ドル（16.4%）、米国は20.6%増の2,551億1,600万ドル（14.9%）と、米中とも大幅に増加した。日本は構成比で6.6%と、ASEANの輸出市場としては香港を下回ったが、10.5%増の1,135億6,100万ドルと拡大した。インド向けは36.4%増と大幅に拡大し、輸出先として存在感を増した。

輸入を国・地域別にみると、最大の輸入相手は構成比で23.9%を占める中国で、29.6%増の3,884億2,400万ドルと大幅に拡大した。続いて20.9%を占めるASEANも、26.5%増の3,404億500万ドルと拡大した。マレーシアは28.3%増の925億8,800万ドル、シンガポールは26.5%増の647億4,900万ドル、タイは20.7%増の610億3,100万ドルと回復基調が鮮明となった。日本は23.9%増の1,266億4,500万ドルと増加し、構成比は7.8%となった。韓国からの輸入も25.6%増えており、構成比で7.4%と、日本と拮抗するようになっている。

表1 ASEANの主要国・地域別輸出入

(単位：100万ドル、%)

| | 輸出 | | | | | 輸入 | | | |
|-----------|-----------|-----------|-------|------|-----------|-----------|-----------|-------|------|
| | 2020年 | 2021年 | | | | 2020年 | 2021年 | | |
| | 金額 | 金額 | 構成比 | 伸び率 | | 金額 | 金額 | 構成比 | 伸び率 |
| ASEAN | 298,111 | 371,642 | 21.7 | 24.7 | 中国 | 299,728 | 388,424 | 23.9 | 29.6 |
| マレーシア | 56,207 | 73,238 | 4.3 | 30.3 | ASEAN | 268,995 | 340,405 | 20.9 | 26.5 |
| シンガポール | 65,535 | 73,021 | 4.3 | 11.4 | マレーシア | 72,190 | 92,588 | 5.7 | 28.3 |
| 中国 | 218,890 | 280,538 | 16.4 | 28.2 | シンガポール | 51,203 | 64,749 | 4.0 | 26.5 |
| 米国 | 211,589 | 255,116 | 14.9 | 20.6 | タイ | 50,551 | 61,031 | 3.7 | 20.7 |
| EU27 | 130,298 | 152,196 | 8.9 | 16.8 | 日本 | 102,241 | 126,645 | 7.8 | 23.9 |
| 香港 | 96,134 | 113,683 | 6.6 | 18.3 | 韓国 | 96,387 | 121,039 | 7.4 | 25.6 |
| 日本 | 102,741 | 113,561 | 6.6 | 10.5 | EU27 | 96,485 | 116,731 | 7.2 | 21.0 |
| 韓国 | 58,580 | 68,510 | 4.0 | 17.0 | 台湾 | 84,667 | 112,403 | 6.9 | 32.8 |
| インド | 39,398 | 53,750 | 3.1 | 36.4 | 米国 | 97,500 | 109,337 | 6.7 | 12.1 |
| 合計（その他含む） | 1,396,747 | 1,712,248 | 100.0 | 22.6 | 合計（その他含む） | 1,273,105 | 1,628,397 | 100.0 | 27.9 |

[出所] ASEAN Stats

■2021年はASEANへの外国直接投資がV字回復

「ASEAN Stats」によると、2021年のASEANの対内直接投資額（国際収支ベース、ネット、フロー）は、前年比42.3%増の1,741億200万ドルとV字回復した。

対内直接投資の受け入れ国別にみると、全体の56.9%をシンガポールが占めた。同国への投資は31.3%増の990億6,200万ドルとなった。続いて、インドネシア（構成比11.5%）が8.0%増の200億8,100万ドルと拡大した。ベトナム（9.0%）は0.9%減の156億6,000万ドルで、前年と順位に変化はなかった。マレーシアは半導体産業などを中心に3.6倍の115億9,400万ドルと大幅に拡大した。また、タイは前年の引き揚げ超過から脱却し、114億2,300万ドルとなった。

投資元を国・地域別で見ると、最大だったのは米国（23.0%）で、EU（15.2%）、ASEAN（12.0%）、中国（7.8%）、日本（6.9%）の順だった。

米国からの外国直接投資受入額は41.1%増の400億700万ドルとなった。このうち金融・保険業への投資は43.5%増の283億4,300万ドルとなった。製造業は13.7倍の93億6,100万ドルと大幅に投資が増加した。

EUからの投資は43.0%増の265億3,400万ドルだった。金融・保険業は30.9%減の104億3,800万ドルと減少した一方、製造業が73.7%増の97億2,100万ドル、前年に引き揚げ超過であった卸売・小売業は76億5,800万ドルと増えた。

ASEANによる域内投資は8.6%減の209億2,500万ドルだった。主にシンガポールからの投資（133億4,400万ドル）が多かった。ASEANからは、主に製造業（90.7%増、76億7,800万ドル）、金融・保険業（65.9%減、30億400万ドル）、鉱業（2.5倍、24億7,800万ドル）などに投資された。

中国の投資は135億9,700万ドルと倍増した。最大であったのは製造業への投資で、30.5%増の34億6,400万ドルと拡大した。情報・通信業は87倍の24億3,900万ドル、不動産も41.2%増の23億5,500万ドルと増加した。

日本は3.5%増の119億8,300万ドルと微増した。国別で見ると、米国、中国、シンガポールに次ぐ4番手となった。業種としては製造業が2.7倍の53億5,300万ドルと拡大し、金融・保険業が64.3%減の19億7,000万ドルと縮小した。

表2 ASEANの対内直接投資
＜国際収支ベース、ネット、フロー＞

(単位：100万ドル、%)

| | 2019年 | 2020年 | 2021年 | | |
|--------|---------|---------|---------|-------|--------|
| | 金額 | 金額 | 金額 | 構成比 | 伸び率 |
| ASEAN | 174,168 | 122,391 | 174,102 | 100.0 | 42.3 |
| シンガポール | 106,320 | 75,466 | 99,062 | 56.9 | 31.3 |
| インドネシア | 23,883 | 18,591 | 20,081 | 11.5 | 8.0 |
| ベトナム | 16,120 | 15,800 | 15,660 | 9.0 | △ 0.9 |
| マレーシア | 7,860 | 3,185 | 11,594 | 6.7 | 264.0 |
| タイ | 4,790 | △ 4,849 | 11,423 | 6.6 | — |
| フィリピン | 8,671 | 6,822 | 10,518 | 6.0 | 54.2 |
| カンボジア | 3,663 | 3,625 | 3,483 | 2.0 | △ 3.9 |
| ラオス | 756 | 968 | 1,072 | 0.6 | 10.8 |
| ミャンマー | 1,730 | 2,206 | 1,005 | 0.6 | △ 54.4 |
| ブルネイ | 375 | 577 | 205 | 0.1 | △ 64.5 |

[出所] ASEAN Stats

(お問い合わせ先)

海外調査部 アジア大洋州課

ORF@jetro.go.jp